Baby　princess　～新たな家族？～

?紫苑?

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
Ｂａｂｙ　ｐｒｉｎｃｅｓｓ　～新たな家族？～

【Ｎコード】
Ｎ４８４４Ｗ

【作者名】
？紫苑？

【あらすじ】
Ｂａｂｙ　ｐｒｉｎｃｅｓｓに新たな家族が！？
初めての投稿なので駄文だとは思いますが見ていってください
感想もできれば書いてください。お願いします（ぺこり

人物紹介（前書き）

初めましてはるです

人物紹介

長谷川　優輝　（ハセガワ　ユウキ）

身長　１８９？
体重　５９？

容姿
外を歩くと誰もが振り向くような容姿
金髪　青い目
上の上
自覚なしで鈍感

性格
クールだけど
誰にでも優しく好かれている
男子に兄貴と呼ばれ慕われている
子供に好かれやすく子供好き

備考
弟がいる3歳と1歳
炊事　洗濯　何でも得意
成績優秀　運動神経抜群
親は事故で他界
親戚はいない
喋るときは「・・・」をつけて喋る
キレるとつけない
喧嘩が強いけど、自分からはしない
霙と同じクラス

長谷川　友　（ハセガワ　トモ）

優輝の弟まだ3歳
優輝のことは「おにーちゃん」という
おにーちゃんと慧が大好き
黒髪で青い目

長谷川　慧　（ハセガワ　ケイ）

優輝の弟まだ1歳
喋り方は「だぁ？　ぶぅ？」
おにーちゃん達が大好きで片時も離れたがらない
おにーちゃん達の姿が見えなくなると泣き出す
茶髪で青い目

備考
学校に許可をとり
弟たちも学校に行く
学校には保育ルームがある
たまに授業にも連れて行く

人物紹介（後書き）

続きは早めに更新したいと思います

のんびり登校

・・・俺はケイを抱っこしながら家を出た

悠「…行ってきます」

ト「行ってきま～す！」

ケ「ばぁぶ！」

・・・なぜかケイまであいさつをしたが

・・・まあいいや早く学校に行こう。

・・・俺は高校生だ　けど親がいないので

俺が弟たちの世話をしている

・・・しかしトモとケイが俺と離れたがらないので

先生に許可をもらい　２人を連れて学校に来たのだ

悠「・・・着いた」

ト「とぉーちゃーく！」

ケ「ちょーちゃーきゅ」（とーちゃーく）

・・・またケイも返事をした。

・・・言葉理解してるのかな？

男「兄貴　おはようございます。

トモさんとケイさんもおはようございます」

悠「・・・おはよう」

ト「おはよー」

ケ「ぶぅ（プイッ）」（プイッ　おにーちゃん以外の人となんか話したくないよ～）

男「あはは，　ケイさん　きついっスね」

悠「・・・人見知り？」
男「人見知りなんすか？」
悠「・・・たぶん　家族以外の人とは話さない」
男「人見知り　なんすかそれ？
悠「・・・・・・うん」

女2「キャー／／／／　悠さんよ～　今日もクールだわ」
霙「悠　おはよう」
悠「・・・霙か　おはよう」
女2「キャー／／／／　霙様もいるわよ～」
悠「・・・霙　相変わらず人気だな」
霙「いや　お前のほうが人気だろ」
悠「・・・おれが？」
霙「気づいてなかったのか！？」
悠「・・・俺は人気じゃないよ？」
霙「気づいてないだけさ（鈍感もここまでくればすごいな）」

男「わ～　本当だ　霙様と兄貴がいる　やっぱ絵になるなぁ」
女1「そうだよね～　けど霙様がうらやましいなぁ
　かわいくて　頭もよくて　それに悠さんと仲がいいなんて」
女2「うんうん」

・・・何か女の子たちがこっち見てなんか言ってる
　　どうしたのかなぁ　・・・聞いてみよう

のんびり登校（後書き）

予定通り更新できました

まだまだ登校（前書き）

かなり遅れました　ごめんなさい
何回か更新しようとしたんですが書いて消えての繰り返しでやる気なくしてました
けど、復活しました

まだまだ登校

・・・
優「・・・どうしたの？」
女「えっ／／／（キャー／／／／　王子様がこんな近くに！！）
　いっいえ　なっ何でもありません！」
優「・・・そう？　・・・何かあったら言ってね」
女「はっはい！　ありがとうございます」

・・・大丈夫そうだったので俺は校舎に向かって歩き始めた・・・
女2「美央すごいじゃん　優さんに話しかけられるなんて」
美「うっうん　はあ　緊張したぁ～」
ト「なんで　きんちょうするの～？」
美「えっだって　優さんに話しかけられると緊張す　・・・えっトっトモくん！？」
ト「うん。　トモだよ～」
美「なっなんで　ここに？」
ト「おにーちゃんがこっちにきてたからー」
美「そうなの？」
ト「うん～」
優「・・・トモ　行かないのか？　・・・行かないならおいていくぞ？」
ト「いくー　いくからおいてかないで～　（ウルウル）」
　・・・っ　かわいすぎる
優「・・・っ！？　じょ冗談だから・・・なきやめ」
ケ「ばぁぶ！！」（そうだよ　なきやんで）
ト「うっうん　ケイもありがとね～」
優「・・・いくぞ」

ト「うん！」
ケ「ぶっ！」（いく！！）

・・・・・いつのまにか霙はどこか行ってたが
無事に学校に着くことができてよかった

まだまだ登校（後書き）

短いですがここまでにしときます
次は早めに更新したいと思います。
できれば、感想を書いてくれるとうれしいです

ＩＮ　校舎（前書き）

やっと学校にはいりました！　長かったですね～
優「・・・長すぎ　・・・いつまで外にいるんだ？」
あはは～　ごめんね～
おこられちゃったよ～

では、はじまりはじまり～

ＩＮ　校舎

～廊下～

・・・やっと、学校に入れたよ

・・・今日は、トモとケイはどっちにいるんだろうきいてみるか

優「・・・今日はどうする？トモ、ケイ？　教室行くか？

・・・それとも保育ルーム行くか？」

ト「おにーちゃんといっしょがいー」

ケ「だっ（コクコク）」（ぼくもー）

・・・けいが必死にうなずいてる

・・・２人とも俺と一緒がいいらしい

・・・まあ今日は教室につれてくか

優「・・・今日は教室な・・・明日は保育ルーム行くんだぞ？」

ト「えぇー　・・・わかったぁ」

ケ「だぶぅ～ぶぅ～だ（ブンブン）」（いやだぁ～　おにーちゃんといっしょがいー）

優「・・・だぁめ　トモだって我慢してるんだから

・・・じゃあ今日、保育ルーム行きたい？」

ケ「ぶぅぶぅ（ブンブン）」（いやだぁ～）

優「・・・でしょう？・・・だから今日は、教室　・・・明日は保育ルームね」

ケ「ぶぅ」（わかったよぉ）

優「・・・えらいえらい（ナデナデ）」

ケ「だぁぶぅ」（えへへ～／／／おにーちゃんにあたまなでてもらったぁ～）

ト「ケイだけずるい～　ぼくもなでて～」

優「・・・はいはい（ナデナデ×2）」
ト「やったぁ」

・・・そんなになでてもらうのが好きなのかなあ？
・・・まぁいいか　はやく行かないと遅刻しちゃう

優「・・・じゃあ行くか」
ト「うん！」
ケ「だぶっ！」（うん！）

ＩＮ　校舎（後書き）

優「・・・やっと学校に入れたね」
あはは～ごめんね～次は、教室にはいれるから～
ト「きょーしつ！はやくいきたい！」
ケ「だっ！」（ぼくも～）
トモ君とケイ君は教室が好きなんだね～
？　僕？　もちろん僕は教室きらいだよ？　あはは～

教室で・・・（前書き）

やっと教室だよ～
優「・・・遅かった」
ト「やったぁ～」
ケ「だっ」（やったぁ）

教室で・・・

～教室～

ガラガラ

優「・・・おはよう」

ト「おっはよ～」

ケ「ぶぅ」（・・・おはよう）

み「あっ優さん（兄貴）おはようございます」

優「・・・はよ」

女「今日は、トモ君とケイ君も教室ですか？」

優「・・・うん・・・今日は、教室」

女「キャー　やったぁ（かっこいい優さんにかわいいトモ君・ケイ君も

今日、ずっと教室にいるなんて　うれしい）」

・・・なにがやったぁなんだろう　・・・女の子は不思議だな

ト「どしたのー？」（上目づかいでくびをかしげる）

ケ「ぶぅ？」（どしたの～）

女「／／／いっいえ　なっなんでもありませんよ（やばい　鼻血が）」

ト「かお　まっか」

女「えっそっそんなことありませんよ」

優「・・・真っ赤」

女「えっゆっ優さんまで！？（何か、はっ恥ずかしくなってきた／／／）」

優「・・・大丈夫？　風邪？」

女「いえっ　風邪じゃありませんよ！（・・・鈍感でしたね）」
優「・・・本当？　顔真っ赤だよ？　保健室行く？」
女「いっいえっ　本当に大丈夫ですから！」
優「・・・そう？　具合悪くなったら教えてね？」
女「はっはい！（優さんに心配されるのはうれしいけど・・・勘違いされてるのはちょっと複雑）
優「・・・気を付けてね」
女「はっはい　ありがとうございます！」

～♪

・・・チャイムが鳴った
・・・先生が来るから早く座らないと
・・・この教室にはなぜかトモとケイの机と椅子まである
・・・しかもサイズぴったり

教室で・・・（後書き）

中途半端で終わっちゃたね～　あはは～
優「・・・せめてきりのいいところでやめてほしかった」
ト「あはは～　ちゅーとはんぱ～」
ケ「・・・」（じ～）
ケイ君そんな目でみないで～
次はちゃんときりのいいとこでやめるから～

次は先生が出てきますよ

続きは早めに書きたいと思います

優「・・・キャラ変わりすぎ」
・・・あはは～・・・

ホームルーム（前書き）

やっと先生出てくるよ～
遅かったね～

でわでわ　どうぞ～

ホームルーム

ＩＮ教室

ガラガラ

「おはようございます」

「おはよーございまーす」

「はい。　それでは、ホームルームを始めます」

「は～い」

「まずは、出席を確認します

相川玲さん」

「はい！」

「天使霙さん」

「はい」

・・・相変わらず霙はクールでかっこいいな

・・・うらやましい

「神山陣君」

「は～い」

・・・こいつは陣　このクラスで2人だけの男子だ

・・・なぜか、俺のことを兄貴と呼ぶが・・・

・・・顔は結構イケメンだと思う

「／／／はっ長谷川ゆっ優輝くん」

「・・・はい」（・・なんで、顔赤いのかな？）

「今日は、トモ君とケイ君も一緒なのね」

「・・・はい」
「それでは、長谷川友君、長谷川慧君」
「は～い！」
「あい！」（はい！）
「はい！　よく出来ました」
「やったぁ～」
「あい！」（やったぁ！）
「（かっかわいい！）」
「・・・どうしたの？みんな・・・鼻押さえて・・・」
「トモとケイがかわいすぎるんだろう　なっ？だろっ？」
「はっはい」
「・・・そう・・・ならわかる」
「（分かるんだ！？）」
「優輝はブラコンだな」
「・・・そう？　・・・霙もだと思うけど・・・」
「私はシスコンではないぞっ！？」
「・・・霙・・・あわてすぎ」
「わっ私はあわててなどないぞ！？」
「・・・うそ　・・・あわてる」
「あわててない！！」
「・・・はいはい」
「信じてないな？その顔は！！」
「・・・信じてるって」
「（すごい・・いつもクールな霙様があわてる！　優さんって何もの！？）」
「あはは～　おにーちゃんがたくさんしゃべってるぅめずらし～ね」
「あいあい（コクコク）」（めずらしい）
「・・・そんなことっ　・・・ないぞ？」
「あはっ　てれてるぅ」
「・・・てっ照れてないぞ！？」

「あぅ／／／／（なぜ、私が優輝相手に照れないといけないんだ！？
優輝もなぜ照れてる！？）」
「・・・霙？・・・どうした？」
「なっなにが？」
「・・・顔が赤い・・・風邪？」
「ちっ違うぞ！？」
「・・・ほんと？」

・・・俺は大丈夫かどうかを調べるためにひたいとひたいをくっつけた
・・・そしたら

「なっなにを！？　（／／／／顔が近い　／／／／プシュー）バタン
「・・・霙？・・・どうした！？
・・・先生！　霙が倒れたので保健室に連れて行っていいですか？」
「はっはい！　いいですよ」
「・・・ありがとうございます」
「いっいえ」
「・・・トモ、ケイいくぞ」
「うん！」
「あい」（いく！）

ホームルーム（後書き）

すごいキャラ崩壊しちゃいました～
優「・・・俺は照れてないぞ！？」
またまた～照れてるくせｎ
うわぁにらまないで　ごめんなさいごめんなさい・・・・

保健室！？　（前書き）

遅くなりました
リアルタイムで書くのでおかしいかもしれません

保健室！？

・・・霙をお姫様抱っこで保健室に連れて行った
先生が倒れた理由を聞いて来たので
話したら
・・・霙に憐れむような視線と
・・・俺にあきれたような視線を送ってきた
・・・？意味が分からない

「だいじょーぶなのぉ　みぞれねーちゃん」
「あぃあぃ」（ぼくもしりた～い）
「大丈夫よ　霙さんは・・・　あと少ししたら目が覚めるとおもうわよ？」

コンコン

「は～い」
「失礼します」
「あらっ　氷柱さんじゃない　どうしたの？」
「はい。担任から言いつかりましてクラスの健康カードを取りに来ました」
「あ～　なるほどね～　はい。」
「ありがとうございます」

・・・氷柱が来たみたいだな

「あ～つららねーちゃんだぁ」
「えっ　トモ君がなんでここに？」

「・・・霙が気絶しちゃったから一緒に連れてきた」
「えっ　優兄さまも！？　霙姉さまは大丈夫なの！？」
「大丈夫よ　あともう少しで目が覚めると思うから」
「そうなんですか。　なぜ気絶したんですか？」
「・・・それは・・・分からない」
「おー　ふたりともかおまっかだったよ～？」
「あ～　なるほど（・・・優兄さまの鈍感が原因か～）」

・・・何故か氷柱まで霙に憐れむような視線を
送っているぞ？
・・・なぜだ？

「あっ　そういえば　家に男が住み始めたんですよ？
霙姉さまから聞いてませんか？」
「・・・男？・・・あの女だらけのとこに？」
「女だらけって・・・まぁそうですけど」
「・・・名前は？」
「陽太郎っていうみたいですね」
「・・・！？　・・・それって高校1年生で剣道してた？」
「あっ　はい　たぶん・・・　知ってるんですか？」
「・・・うん　・・・知り合いっていうか剣道で戦ったことある」
「優兄さまって剣道してたんですか？」
「・・・うん　・・・少しだけ」
「へぇー　意外ですねぇ」
「・・・そう？」

・・・陽太郎は純粋な目をしていたから
・・・よく覚えてる
・・・そういえばこの前ヒカルと試合したって言ってたな
・・・それで、引っ越すことになったって

・・・天涯孤独って嫌だよな

保健室!?　（後書き）

会話文長いですね～
変じゃなかったですか？
感想などよろしくお願いします

陽太郎・・・（前書き）

遅くなりました
またもや考えながら書いていくので
変になるかもしれません

陽太郎・・・

・・・あの天使家に陽太郎がね・・・

・・・大丈夫かな・・・陽太郎

「ん？」

・・・おっ霙が起きた

「霙姉さま！　大丈夫！？」

「えっ　あっあぁ　大丈夫」

「・・・よかった」

「よかったのー！」

「だっ！」（うんうん！）

「心配かけたな　ごめんな？」

・・・んー？　それにしても何であそこで倒れたんだろう？

・・・まぁいいか

「・・・氷柱」

「何ですか？」

「・・・いや？　・・・教室に戻らなくてもいいのか？」

「あっ！？　はやくいかないと！　失礼しました！」

・・・氷柱が急いで出て行った

「おー？　つららねーちゃん
あしはやーい！」
「（コクコク」
「・・・はやいな」
「そうだな」
「・・・けど廊下走っていいのかな？」
「駄目だろうな」

・・・まぁ氷柱なら日頃の行いがいいし
・・・大丈夫だろ

「・・・そういえば、俺たちも身体測定に行かないと」
「そうだったな　行くか」
「ぼくもいくー」
「だっ！」（いくー）
「・・・そうだな、トモとケイもついでに
はかってもらえ」
「うん！」
「だっ！」（やったー）

陽太郎・・・（後書き）

即席で考えたので短いですねw

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4844w/

Baby　princess　～新たな家族？～

2011年11月20日19時32分発行